

書き表し方に着目して推敲し、
よりよく表現できる児童の育成を目指して
—文章をよくする視点を見付け、活かす対話的活動を通して—

特別研修員 国語 高木 理恵子 (小学校教諭)

目指す児童像
視点をもって推敲し、よりよく表現できる児童

【手立て2】

読み手に伝わる文章にするために、困ったことを書かせて、目的をもって対話的活動に参加させる。

友達に、自分が言いたいことが伝わるかな？困っていることや迷っていることを振り返りに書いておきましょう。



【前時の振り返り】

詳しくなるように書き加えてみたけど、この書き方で伝わっているのか不安だな。相談会で聞いてみたい。

「相談会」で解決



直してみたけれど、これで伝わるかな？

【手立て1】

文章をよくする視点を見付け、視点を使うようにするために、使い方を児童自身が追究し「研究メモ」を作成させる。

文章をよくするには、どこに気を付けますか？

文章の順番？「構成」っていうのだったかな。

文章がどうなっていると、よい構成なのでしょう？

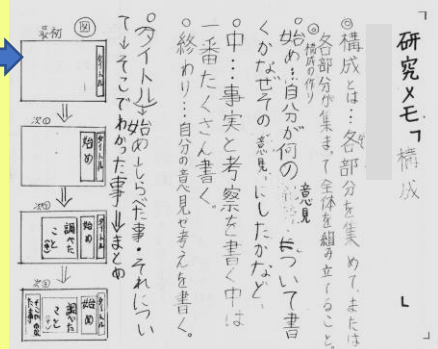
ん〜。詳しく調べてみよう。



文章をよくする視点

- 構成
- 文章表現
- 原稿用紙の使い方
- 引用

児童が作成した「研究メモ」



どこに気を付けると文章がよくなるのかな？

児童の実態

- ・言葉や文に気を付けて考えることが苦手。
- ・どうすれば文章がよりよくなるのか、分からない児童が多い。
- ・自分の考えを見直したり、友達の考えに意見をもったりすることが苦手。

成果

- ◎同じ推敲の視点で学習を進められるようになった。
- ◎見付けた視点が四つに絞られたことで推敲が焦点化され、できたことが明確になり、達成感につながった。
- ◎児童が追究して作成した「研究メモ」が、推敲の手助けとなった。

課題

- 文や全体の流れを読み取り、適切な言葉に推敲することが困難だったので、他の单元でも言葉に関心をもたせ、考える学習を取り入れる必要があった。
- 対話的活動で解決するための「困ったこと」がない児童もいたため、視点以外の見方も考えさせるとよかった。